

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0970400750		
法人名	社会福祉法人報徳会		
事業所名	グループホームあゆ		
所在地	栃木県佐野市仙波町504-6 (電話) 0283-84-1588		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年8月1日	評価確定日	平成19年8月29日

【情報提供票より】(平成19年7月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人(うち兼務1人), 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,620 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代-実費 ・おむつ代-実費 ・光熱水費-17,700円 ・通院等の費用-1回1,000円 1kmあたり20円 ・日用品費-3,300円 ・共益費-3,200円 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(30,000円)	有りの場合償却の有無	有 (修繕費として退居時に精算)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成19年7月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名	
要介護1		名	要介護2		3 名	
要介護3		3 名	要介護4		2 名	
要介護5		1 名	要支援2		名	
年齢	平均	86.3 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長島医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは旧葛生町にある社会福祉法人報徳会が平成17年8月に開設したグループホームである。建物構造は木造平屋、周囲の林からは時折小鳥のさえずりが聞こえ、精神的にも癒される環境に恵まれている。職員の利用者への接し方、話し方は穏やかであり、職員の目配りも良く、食事等においても入居者一人ひとりの好みにあったものを提供するなどの配慮がなされている。開設から2年目であるが、入居者一人ひとりに対応した支援が随所で見られ、職員間でのケアの方針等の共有も図られ、より高い質の向上に向けての取り組みが感じられるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点については、運営推進会議で検討を行い、できるものから取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が職員に説明し、職員が自己評価に取り組み、話し合いが行われ、管理者が最終的に集約した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、構成は地域包括支援センター、民生委員、同法人のケアマネジャー、入居者、入居者家族で構成されており、地域の自治会長は参画していない。会議では、ホームの課題をあげ、課題解決を図るための討議がなされている。市とは開設以来、連携が取れている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に声かけをし、入居者の状況を伝えたり要望を伺っている。ホームだよりは年4回発行している。苦情解決体制を整えており、ホームの苦情受付窓口、第三者委員の連絡先、市・国保連の連絡先が明記されている。意見箱を設置しているが、現在までに意見や苦情が寄せられたことはない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入しているが、運営推進会議に自治会長は参画していない。自治会活動に協力し、敬老会などにも参加している。現在、近隣の地域の方々との日常的な交流は少ないが、今後ホームの行事の際に呼びかけをして、交流が図れるようにしていく予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を「自分らしくゆとりを持って」として、誰でも分かりやすい表現で玄関にも掲示している。	○	今後、地域との交流を充実していこうと考えていることから、入居者の地域生活に視点を置いた理念を加えていくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、日々のミーティングや申し送りの際に理念の確認、共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の小学校の行事に招待されたり、敬老会に参加したりしている。また、近隣の農家から季節の野菜をいただくなど、ご近所との交流も図られている。	○	現在、近隣の地域の方々との日常的な交流は少ないが、今後ホームの行事の際に呼びかけをして、交流が図れるようにしていく予定であるので、実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前に実施した自己評価及び外部評価での改善点については、ホームだよりの作成など、できるものから改善が図られている。今回の自己評価については、管理者が職員に説明し、職員が自己評価に取り組み、話し合いが行われ、管理者が最終的に集約した。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター、民生委員、同法人のケアマネジャー、入居者、入居者家族が参画している。前回の改善点などについてメンバーから意見を聞き、改善・見直しに活かしている。	○	ホームについて、また認知症ケアについて地域の理解を深めたり、協力を得やすくする意味でも運営推進会議に自治会、学校、消防等にも積極的に参加していただけるよう働きかけることなどにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは開設以来、連携が図られ、担当者に相談したりアドバイスを受けていたりといった関係になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は頻繁にあり、家族が訪問した際には声をかけ、入居者の状況を伝えたり、要望を伺っている。ホームだよりも年4回発行し、家族に配布している。金銭管理や健康状態については、家族の訪問時にそれぞれ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決体制を整えており、ホームの苦情受付窓口、第三者委員の連絡先、市・国保連の連絡先が明記されている。意見箱を設置しているが、現在までに意見や苦情が寄せられたことはない。運営推進会議には家族の代表として2名参画している。家族会の組織化を現在検討中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職は極力避けるように努めている。職員が変わるときは、入居者へのダメージがないように配慮し、また家族の訪問の際などを利用して信頼関係が築けるよう努めている。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内勉強会が月1回開催され、職員は積極的に参加している。職員間では疑問や不安なことがあった場合、話し合いを行い、確認・疑問の解消に努めている。外部研修への職員の参加は難しい状況である。	○	職員の向上心を支えていくために、すべての職員に学びの機会を定期的につくっていけるような取り組みを期待したい。また、外部研修を受講した際に、報告書や伝達研修を行うなど、研修内容や成果をホーム全体の資産としていくような仕組みづくりを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上のために近隣のグループホームと連携をとりあい、職員同士で勉強会を実施し情報交換を行っている。全国や県の事業者組織には加入していない。	○	近隣のみならず、市内の事業者との相互の連携を深めたり、勉強会等を通して更なる質の向上を図っていくためにも、近隣の事業所との連絡会の組織化の検討などを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらい、わかり易く説明し、相談にのりながら、本人が安心して納得して入居できるように本人の意思を尊重しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、支援する側、される側という意識は持たず、入居者と職員がお互いに支えあう関係をつくることを大切にしている。入居者からは日常生活の中から様々なことを学ぶことが数多くあり、「(入居者は) 人生の先輩である」という考え方が職員間で共有されている。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活におけるかかわりの中で、声かけや話をしながら入居者一人ひとりが求めていることを把握している。希望等の意向の表出が困難な場合には、家族の協力を得て、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時を利用して、月1回、本人・家族と相談して、意見・要望を踏まえて介護計画を作成し、説明のうえ同意を得ている。また、毎日の申し送りの際に職員の気づきや提案について話し合いをし、それらの情報も介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月を目安にしており、状態の変化時には、本人・家族、必要に応じて医師等と話し合い、検討し、適宜見直しを行い、家族の同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望により、外出・外泊等の送迎や食事等の変更など、その時々々にあわせて柔軟に対応している。医療連携体制加算の申請について、現在検討中である。		

グループホームあゆ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。容態の変化時の対応については、協力医療機関の往診等により対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は対応していないが、対応の必要性を感じており、事業所内で重度化した場合や終末期のあり方等について管理者・職員で話し合いを行い、検討している。	○	入居者や家族の希望も聞きながら、また必要に応じて医療関係者とも連携しながらホームとしての対応方針を明らかにしていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重して日々の声かけや対応について職員間で共有を図りながら対応している。また、記録等の個人情報の取り扱いについても気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、日課は特に決めていない。訪問調査時には、自分の居室の整理をする方がいたり、職員と談笑する方がいたり入居者一人ひとりが思い思いに過ごされていた。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに配慮しながら、献立が作成され調理が行われている。訪問調査日の昼食は、うなぎの混ぜご飯が主食であったが、うなぎの苦手な方には鮭の混ぜご飯を、混ぜご飯の苦手な方には別のものを用意するなど、入居者一人ひとりに合わせた配慮がなされていた。職員も入居者と同じものを食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は午後であり、入居者の希望で一人で入ったり、気のあう入居者と入ったりと入居者の要望にそった入浴の支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月のカレンダーを入居者が参加して作成している(数字の記入、色ぬり等)。また、庭の草取り、食事の後片付けなど入居者と相談しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事の買い物(週3回)やホームの裏の小高い丘を散歩したりしている。外出の際には、入居者の希望により外食なども取り入れながら支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアは、夜間だけ鍵をかけている。入居者の中には、自分の居室に鍵をかける方もいるが、行動などを把握しながら見守り、支援している。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の地域の方々には、災害時等の協力要請はおこなっている。定期的な避難訓練等は実施していない。	○	消防署や消防団の協力を得ながら、定期的な避難訓練を実施していくことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受けて、栄養のバランス等に注意しながら支援している。水分摂取については記録をしながら、十分に摂取できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋造りで、周囲は木々に囲まれ、季節によって小鳥のさえずりが聞こえる。フロアの日差し等も緑に遮られ、季節感のある共有空間となっている。また、それぞれの設備や調度品はいずれも家庭的なものを採用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の馴染みのものが持ち込まれている（テーブル、イス、テレビ、ぬいぐるみ等）。また、洋室の各居室には畳コーナーがあり、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。